



## 2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年8月9日

上場会社名 武蔵野興業株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9635 URL <https://www.musashino-k.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河野 義勝  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 市川 幹雄 (TEL) 03-3352-1439  
 四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年6月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	309	△2.6	1	△80.0	△3	—	△4	—
2023年3月期第1四半期	317	△2.8	8	△74.2	0	△95.1	△5	—

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 △4百万円(—%) 2023年3月期第1四半期 △5百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	△4.33	—
2023年3月期第1四半期	△5.47	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第1四半期	5,913	3,572	60.4	3,413.81
2023年3月期	5,954	3,576	60.1	3,417.92

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 3,572百万円 2023年3月期 3,576百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年3月期	—				
2024年3月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,300	△5.8	70	35.2	50	95.3	30	△26.1	28.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2024年3月期1Q	1,050,000株	2023年3月期	1,050,000株
2024年3月期1Q	3,622株	2023年3月期	3,619株
2024年3月期1Q	1,046,379株	2023年3月期1Q	1,046,396株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の基準に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあつたての注意事項については、添付資料のP3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の行動制限の撤廃など経済活動の正常化に向けた動きが見られる一方、ウクライナ情勢の長期化や物価上昇・円安など消費動向に影響を与える材料も散見され、依然として不透明な状況が続きました。

このような状況のもと、当社グループは基幹事業である映画事業に重点を置きつつ、各事業において業績の向上に努めてまいりました。また、前連結会計年度より、連結子会社の株式会社寄居武蔵野自動車教習所の決算日を1月31日から3月31日に変更したことに伴い、2022年2月1日から2022年4月30日までの3か月間を連結した数値と、2023年4月1日から2023年6月30日までの3か月間を連結した数値を用いて、前年同期比の数値を算出しています。そのため、自動車教習事業部門は前年同期比の数値比較に季節要因が発生し、売上高及び収益の押し下げ要因となっております。以上の結果、全体として売上高は 3億9百万円（前年同期比2.6%減）、営業利益は1百万円（前年同期比80.0%減）、経常損失は3百万円（前年同期は0百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は4百万円（前年同期は5百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

当第1四半期連結累計期間のセグメントごとの業績の状況は以下の通りであります。

#### (映画事業部門)

映画興行事業におきましては、「武蔵野館」では、『ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい』『午前4時にパリの夜は明ける』、また「シネマカリテ」では、『セールス・ガールの考現学』『E0 イーオー』などを上映し、両館とも売上高は前年実績を上回りました。また、当社が主催する新宿東口映画祭は、今年で3年目を迎え、「愛」をテーマに邦画・洋画の名作、アニメ、カツベン映画などバラエティに富んだ作品を上映しました。

映画配給関連事業におきましては、当社連結子会社の配給作品『淪落の人』（香港映画）はWOWOWで放送され、『狼 ラストスタントマン』（邦画）は継続的に多くの劇場で上映されました。また、8月公開の『認知症と生きる希望の処方箋』（邦画）は、新宿東口映画祭で特別上映されました。

その結果、部門全体の売上高は1億5百万円（前年同期比20.2%増）、セグメント損失は8百万円（前年同期は1千9百万円のセグメント損失）となりました。

#### (不動産事業部門)

不動産賃貸部門におきましては、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の分類において5類に移行したことで、各テナントの利用客も増加傾向となる中、テナント収入も回復の動きが見られました。主要テナントビルの設備の更新等に係る減価償却費は、工事内容を精査し段階を踏んで行うことにより、工事自体は減少しました。不動産販売部門におきましては、景気の動向に注意を払いながら取引の機会を模索しました。その結果、部門全体の売上高は1億4千1百万円（前年同期比3.6%増）、セグメント利益は7千9百万円（前年同期比3.8%増）となりました。

#### (自動車教習事業部門)

自動車教習事業部門におきましては、売上の柱である普通自動車免許と大型自動車免許の教習に注力するとともに、社会的にニーズが高まっている高齢者講習への対応拡充（施設の増設等）を行ってまいりました。高齢者講習は、計画通りに進みつつある一方、普通自動車免許と大型自動車免許につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大期間における免許取得者増加の反動が顕在化している状況となっております。なお、前連結会計年度より、連結子会社の株式会社寄居武蔵野自動車教習所の決算日を1月31日から3月31日に変更したことに伴い、季節要因が発生し、部門全体の売上高は5千9百万円（前年同期比34.4%減）、セグメント損失は4百万円（前年同期は2千1百万円のセグメント利益）となりました。

#### (商事事業部門)

当該事業部門の主軸である東京都目黒区において経営委託している飲食店につきましては、新型コロナウイルス感染症の行動制限の撤廃など、経済活動の正常化に向けた動きから、営業成績はコロナ以前の水準まで回復しました。その結果、部門全体の売上高は1百万円（前年同期比7.7%増）セグメント利益は1百万円（前年同期比7.7%増）となりました。

#### (その他)

主として自販機手数料であります。部門全体の売上高は1百万円（前年同期比27.4%増）、セグメント利益は1百万円（前年同期比31.7%増）となりました。

※ スポーツ・レジャー事業部門は営業中止中であります。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、賃貸ビルの改修工事による固定資産の増加があったものの、未払債務及び有利子負債の返済による現金及び預金の減少があったことなどから、前連結会計年度末に比べ4千1百万円減の59億1千3百万円となりました。

### (負債)

負債合計は、未払債務の減少や有利子負債の返済による減少があったことなどから、前連結会計年度末に比べ3千7百万円減の23億4千1百万円となりました。

### (純資産)

純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等により利益剰余金が減少し、前連結会計年度末に比べ4百万円減の35億7千2百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の通期連結業績予想につきましては、現時点においては、2023年5月11日発表の業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	743,268	704,633
売掛金	43,972	38,420
棚卸資産	3,076	2,619
その他	52,123	53,654
流動資産合計	842,441	799,327
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	473,587	479,203
機械装置及び運搬具（純額）	16,054	15,080
工具、器具及び備品（純額）	20,979	21,790
土地	3,904,167	3,904,167
リース資産（純額）	5,521	5,091
有形固定資産合計	4,420,311	4,425,333
無形固定資産		
借地権	67,260	67,260
その他	8,934	9,399
無形固定資産合計	76,194	76,659
投資その他の資産		
投資有価証券	434,753	428,457
繰延税金資産	55,095	56,898
敷金及び保証金	88,646	88,646
その他	40,999	41,887
貸倒引当金	△3,933	△4,053
投資その他の資産合計	615,561	611,836
固定資産合計	5,112,067	5,113,829
資産合計	5,954,508	5,913,156

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	61,887	38,116
短期借入金	57,660	57,660
リース債務	2,841	2,132
未払法人税等	16,191	3,206
賞与引当金	16,378	26,197
その他	165,958	166,802
流動負債合計	320,917	294,115
固定負債		
長期借入金	282,976	268,561
リース債務	3,960	3,690
退職給付に係る負債	56,559	56,464
役員退職慰労引当金	8,906	8,906
長期預り敷金	613,839	618,345
再評価に係る繰延税金負債	1,082,196	1,082,196
その他	8,711	8,740
固定負債合計	2,057,149	2,046,904
負債合計	2,378,066	2,341,020
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,004,500	1,004,500
利益剰余金	126,347	121,819
自己株式	△8,711	△8,711
株主資本合計	1,122,135	1,117,608
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,222	2,444
土地再評価差額金	2,452,083	2,452,083
その他の包括利益累計額合計	2,454,305	2,454,528
純資産合計	3,576,441	3,572,136
負債純資産合計	5,954,508	5,913,156

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
売上高	317,218	309,097
売上原価	150,752	157,926
売上総利益	166,466	151,171
販売費及び一般管理費	157,675	149,411
営業利益	8,791	1,759
営業外収益		
受取利息及び配当金	737	1,095
その他	210	663
営業外収益合計	947	1,758
営業外費用		
支払利息	548	286
持分法による投資損失	7,738	6,616
その他	575	-
営業外費用合計	8,862	6,902
経常利益又は経常損失(△)	877	△3,385
特別利益		
新型コロナウイルス感染症による雇用調整助成金等	3,745	-
特別利益合計	3,745	-
特別損失		
環境対策費	2,555	1,799
特別損失合計	2,555	1,799
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	2,066	△5,184
法人税、住民税及び事業税	8,090	1,224
法人税等調整額	△295	△1,882
法人税等合計	7,794	△657
四半期純損失(△)	△5,727	△4,527
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△5,727	△4,527



## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失(△)	△5,727	△4,527
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	180	222
その他の包括利益合計	180	222
四半期包括利益	△5,547	△4,305
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△5,547	△4,305

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響の考え方)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の拡がり方や収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度をグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他	合計
	映画事業	不動産事業	自動車教習事業	商事事業	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	87,498	9,615	90,438	1,789	189,340	1,084	190,425
その他の収益	—	126,792	—	—	126,792	—	126,792
外部顧客への売上高	87,498	136,408	90,438	1,789	316,133	1,084	317,218
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	900	—	—	900	—	900
計	87,498	137,308	90,438	1,789	317,033	1,084	318,118
セグメント利益又は損失(△)	△19,526	76,691	21,238	1,789	80,192	1,007	81,199

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、版權事業その他であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	80,192
「その他」の区分の利益	1,007
セグメント間取引消去	3,698
全社費用(注)	△76,106
四半期連結損益計算書の営業利益	8,791

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他	合計
	映画事業	不動産事業	自動車教習事業	商事業	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収益	105,150	10,141	59,354	1,926	176,572	1,381	177,954
その他の収益	—	131,143	—	—	131,143	—	131,143
外部顧客への売上高	105,150	141,284	59,354	1,926	307,716	1,381	309,097
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	900	—	—	900	—	900
計	105,150	142,184	59,354	1,926	308,616	1,381	309,997
セグメント利益又は損失(△)	△8,499	79,637	△4,521	1,926	68,542	1,325	69,868

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、著作権事業その他であります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	68,542
「その他」の区分の利益	1,325
セグメント間取引消去	2,939
全社費用(注)	△71,048
四半期連結損益計算書の営業利益	1,759

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## 4. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。